

平成 27 年 5 月

語り部：西原 輝茂

私は昭和 11 年に愛媛師範附属小学校に入学した。父は国鉄、今の JR の課長だった。父は私を学校の先生にさせたかったが、私は父の後を継ぎたいと思っていた。当時は尋常小学校と呼んでいた。6 年生を卒業すると女の子は女学校へ行った。私は父の反対を押し切って工業学校へ入学した。当時の学校の先生の中に、戦争は危険だと教えてくれた人がいた。しかし、その話をした先生は、反戦思想ということですぐに陸軍からの召集令状がきて戦争に行くことになった。今思えば本当に命の大切さを教えてくれた先生だったのだと思った。

1922 年 12 月 8 日に大東亜戦争がはじまった。軍国主義一色となった。当時松山では映画館や芝居座、娯楽施設がたくさんあった。学校でも圧力を掛けられ、志願兵が募集された。旧制中学 3 年生のときに、周りの雰囲気もあり、陸軍と海軍の志願兵の試験を受験した。先生も応援してくれた。15 歳だった。みんな受験していた。陸軍幹部候補生に合格した。学校から合格したのは 4 人だった。その後、予科練の三重海軍航空隊からも合格通知が届いた。入隊日を見ると、予科練の方が早かった。上級生より予科練に合格したことが知られると、毎日殴られ、いじめにあった。その上級生は不合格だったので、妬まれた。とても悔しくて、1 日も早く予科練に行きたかった。

11 月に三重海軍航空隊に入隊し、その後、奈良海軍航空隊に飛行学生として赴任した。

4 階級に分けられて、初めは 4 級生として入った。全国から集まっていたため、方言が混在していたが、言葉遣いを徹底的になおされた。訓練は本当に厳しかった。起きて 15 分で支度をして整列しないといけなかった。1 分でも遅刻すると罰則を与えられた。団体生活であったため、1 人がミスをすると全員が殴られた。先輩より、「スマートで、目先が利いて、几帳面であれ。」と言われ、連帯責任を強いられた。仲間意識がどんどん強くなっていった。また、軍需勅諭を覚えさせられた。海軍は 1 秒でも早く敵を見つけた方が勝つ、遅かったら死んでしまう、だから走れ、と言われ走らされ続けた。午前中は学習をし、午後は銃の訓練、ほふく前進の訓練を受けた。

赴任した当日は先輩から優しい指導を受けた。まず、風呂に入らされ、「一般世間の垢を落とせ。」と言われ、風呂から出ると、着てきた学生服などなくなっていた。握力や懸垂などの身体検査を受けることになった。下着から軍服などすべての衣服を支給された。軍服は 3 種類あり、2 種軍曹の制服は、七つボタンで桜の錨（いかり）ボタンだった。赴任初日は食事もおいしく、先輩からも優しく手取り足取り指導をしてくれた。

翌日になると、先輩方は鬼となった。朝5時半に起床し、先輩の指導はしつげに変わった。6時までにはベッドの整理など終わらせなければならなかった。口答えはできず、ご飯の食べ方も厳しく指導を受けた。その後、海軍として自覚が自然と芽生えた。講義は、軍人勅諭の暗記などしていたが、眠ってしまうと、後ろに座っている先輩よりビンタを受けた。油断することができなかった。海軍はラップで行動をしていた。海軍でも陸軍の小銃の射撃訓練をした。私物は全て送り返された。

アメリカやイギリス、オランダ、オーストラリアなどと戦争状態に入った。12月8日の朝、アメリカのハワイにあった真珠湾を日本が攻撃した。当時の日本のパイロットはとても優秀だった。ハワイの真珠湾には大きな戦艦や巡洋艦はあったが、航空母艦はいなかった。当時のアメリカの大統領であったルーズベルトは、これからは航空母艦の時代になり、制空権が勝負を決すると感じ、ものすごい工業力で航空母艦や飛行機を建設した。当時、日本はインドネシアまで勢力をのぼし、戦勝した気分だった。

昭和17年6月5日にミッドウェー海戦があった。航空母艦同士の戦いであった。アメリカの航空母艦は分散して、日本との戦いに備えていた。日本の航空母艦は縦隊で待ち構えていた。当時の日本にはレーダーなど敵を見つける手段が乏しかった。アメリカは日本の飛行機を電波で見つけていた。アメリカの飛行機は上空から日本の航空母艦を攻撃した。日本は海上すれすれから低空で攻撃したが、アメリカのレーダーに察知されてしまった。アメリカは雲のすき間から日本の航空母艦を見つけて攻撃した。そして、アメリカに制空権を奪われた。日本の航空母艦をすべて沈められた。

翌年にはグアム、サイパンなども占領された。アメリカは、サイパンに飛行場を整備した。それによって、B29が直接日本本土を攻撃できるようになった。悲惨な目にあった。松山や東京などの空襲も、制空権がないために行われた。日本軍は敗色になってきた。

昭和20年に松山海軍航空隊に転勤となった。予科練は操縦、偵察、整備の3つに分かれ、私は通信に配属された。その後も5時半に起床し、海軍体操、軍歌練習を欠かすことなく、行っていた。松山海軍航空隊ができたのは、広島の大田にあった軍港を守るためだった。松山には当時最新の飛行機があった。当時、世界最高と言われていたゼロ戦をも超える優秀な飛行機の紫電改が50機、松山にあった。他にもゼロ戦が7機、偵察機が4機あった。いつも掩体壕に格納されていた。当時のゼロ戦は1機で敵のグラマン戦闘機2機を倒すぐらい優秀な戦闘機だった。松山にいた搭乗員たちは、ミッドウェー海戦で駆逐艦に救われた方たちだった。

昭和20年3月19日にアメリカの航空母艦が豊後水道の近くまでやって来

た。300機ほどの飛行機が呉の軍港に向かったと連絡があり、松山からも紫電改、ゼロ戦、偵察機が向かい、瀬戸内海上で空中戦が起こった。敵を63機撃ち落とし、戦艦大和を守り抜いた。ワイルドキャットの攻撃から守った。

私は通信だったので、モールス符号を覚えるのに苦労したが、先輩の指導を受け、覚えることができた。当時、必死で勉強したので、今でも覚えている。

昭和20年5月6日に、松山航空隊はアメリカに爆撃を受けた。その時は、多くの紫電改やゼロ戦は九州の鹿屋基地などに特攻隊の援護に行っていたので、松山には戦闘機がほとんどいなかった。アメリカのグラマンにより徹底的に機銃掃射を受けた。その爆撃により、私の戦友をはじめ多くの少年が亡くなった。

予科練では、いじめはなく、みんなが団結し合っていた。みんなが仲良くし、団結すれば良いクラスになる。それがひいては立派な社会人となる。

#### 感想、質疑応答など（約5分）

- ・修学旅行で原爆ドームに行くので、もっと戦争の事について勉強したい。
- ・海軍の訓練が大変だとわかった。